

まごころだより

2020年 11月号

先日、長い間利用して頂いていた方が逝去されました。あまり調子が良くなかったのですが、少し前まで利用されていたので、訃報を聞いた時はやはり衝撃を受けました。自宅で看取られたとのことで、望まれていたような最期だったようです。

知らせが入った途端にその方の思い出や、会話をした事とか、その時の表情が次々思い出され、思わず顔が緩んでしまいました。花がお好きで、季節ごとの花を見てもらおうとお連れした時はとても感激されて、こちらの方が嬉しくなったほどです。数年前から車イスを使うことになりましたが、それ以来、出掛ける機会が無くなり、デイサービスが唯一のお出かけ先になりました。デイサービスでは他者との交流で談笑ができるし、家事の手伝いのような事もできる楽しみのある場所だとおっしゃっておられました。食べ物の話をすると、「いつかそれを食べてみたいわ。」景色の話をすると、「そこに行ってみたいわ。」家族の話をすると、「遠くに子供がいるけど会いたいわ」など、いくらでもやりたいことがあるのだと感じ取れました。私は全ての要望を叶えてあげる事はできないけれど、少しでもお手伝いができないものかと思い、せめて景色やお好きな花など見られる所がないかと調べました。そして送迎時に少し遠回りして見てもらう事にしました。季節ごとに咲く花や、季節ごとに彩を変える景色をその場所に着く前に会話の中で想像してもらい、ほら、その花がそこに咲いていますよと指さすと、歓声をあげて喜ばれました。何度も何度も感激と感謝の気持ちをもたらえたのでお連れして良かった、この程度のことしかできないけれど、こんなに喜んで貰えるのであればまた連れてきてあげようと嬉しく思いました。



若い時は、したいと思ったらできた。行きたいと思ったら行けた。でも年をとって叶わない事が多くなって変化のない日常になってしまい、わがま

まを言ったら迷惑を掛けるから言い出せなくなってどんどん気持ちが沈んでしまう。自分の意志を示す人はまだしも、自分が何をしたいのか分からない人も沢山おられます。その時はいろんな提案してお付き合い頂くことにしますが、拒否をされる人、喜んでもらえる人とかでいろいろです。けっして強制はしません。しかし、その間の話し掛けには必ず返事をしてもらえますので、その会話の中で要望をつかむように心がけています。そういう意味では家事作業やドライブや散歩はその方を知る上でとても良いきっかけ作りだと思っています。

常々、利用いただいている方のご家族に、その時々のお話や様子をお伝えしたいと思っています。送迎時に限らず、時間の許す限りお伝えするようにしていますが、

簡略的になってしまい本当に伝えたい内容でなくなりがちで残念でなりません。ご家族にはゆっくりとデイサービスでの様子や、会話で感じたことなどをお伝えできればいいなと思っています。



水を得た魚のよう・・・・・・・・



おやつ・おかず。どっちにしてもおいしそう



始めたら、もう夢中